

# 2020年度 不登校児童生徒対策推進事業実施報告

学 校 名	道志村立道志小学校
研究テーマ	一人一人の児童の心の安心・安全を守る体制づくり ～ 心を育てる教師力の育成と学校組織開発 ～
テーマ設定 の理由	本校は小規模校(児童数60名)で、児童の課題として仲間関係の固定化、自己肯定感が低い傾向が見られた。また、教職員は20代・30代の若手教職員が半数以上を占め、各教職員の心を育てる教師力を培う必要がある。組織的・計画的な取組により、一人ひとりの児童の個別性尊重・自尊心・自律性を高める学校組織体制づくりを行いたいと考えた。
研究の概要 (成果等)	<p><b>1. 目的</b> 一人ひとりの児童の心の安心・安全を守る体制をつくり、包括的・計画的生徒指導体制を構築する。</p> <p><b>2. 方法</b></p> <p>(1) 毎月校長が主導する全校集会等に基づき、教職員の能動的協働的教育活動展開を促す。</p> <p>① 全校集会 (目標の明確化・共有)</p> <p>② 成果・目標等の壁掲示 (月別目標の意識化)</p> <p>(2) 教職員の心を育てる教師力発揮を促す人材育成・組織開発システムを学校に組織化し展開する。</p> <p>① 教師力パワーアップシートの活用 (月別目標及び手立ての設定、さらに振り返りによりPDCAサイクル展開を促す。)</p> <p>② 教師力パワーアップタイム (小グループ話し合い) (放課後20分間、小グループで話し合い、職員同士の協働性を高め、能動的実践展開を促す。)</p> <p>③ 教師力ワークショップ (学び合い磨き合う文化の醸成)</p> <p><b>3. 活動経過</b></p> <p>(1) 4月の活動</p> <p>① 教師力パワーアッププランの職員への周知・共通理解 コロナ危機における子どもを守る教職員体制づくり</p> <p>② 自己課題の明確化 (教師力パワーアップシートの活用)</p> <p>(2) 5月の活動</p> <p>① 1学期の目標設定 (教師力パワーアップシートの活用)</p> <p>② コロナ危機に対する教育活動づくり (ガイドライン作成)</p> <p>③ 全校集会「コロナに負けないゴールデン4」を示しコロナウイルス感染症への適切な対応に関する校長講話。</p> <p>(3) 6月の活動</p> <p>① 国際基督教大学名誉教授の小谷英文先生とリモートで繋ぎ「心の健康を守る全校集会」を実施。</p> <p>(4) 7月の活動</p> <p>① 全校集会「1学期のゴールを目指して」の校長講話。</p> <p>② 東京医科大学講師の中村有希先生とリモートで繋ぎ、教師の存在感向上をテーマにワークショップを実施。</p> <p>③ 成果と課題の明確化 (教師力パワーアップタイム)</p>

	<p>(5)8月の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①全校集会「心で聴くということ」の校長講話</li> <li>②2学期の目標（教師力パワーアップシートの活用）</li> </ul> <p>(6)9月の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①全校集会「秋季大運動会でパワーアップ」の校長講話</li> <li>②運動会での教師の働きかけの明確化</li> </ul> <p>(7)10月の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①全校集会「一人一人を大切に作る心・あたりまえを大切に作る心」をテーマの校長講話。</li> <li>②組織的働きかけ（教師力パワーアップシートの活用）</li> </ul> <p>(8)11月の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①全校集会「進んで活動し活動することを楽しむ心」をテーマの校長講話。</li> <li>②子どもの心を育てる道徳特別授業（5・6年） プロ選手のメンタルコーチの武野顕吾先生を招き「輝く自分を求めて」をテーマの道徳特別授業を実施。</li> </ul> <p>(9)12月の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①全校集会「人権①素直に思ったことや考えたことを伝えること。②自分ができることを進んでやってみること」をテーマの校長講話</li> <li>②東京医科大学講師の中村有希先生の指導を受けて校長が講師をして対話力向上のワークショップを実施。</li> </ul> <p>(10)1月の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①全校集会「ゴールを目指してチャレンジ」の校長講話。</li> <li>②3学期の目標（教師力パワーアップシートの活用）</li> </ul> <p>(11)2月の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①全校集会「心の節分」をテーマの校長講話。</li> <li>②東京医科大学講師の中村有希先生の指導を受けて校長が講師をして教育的対話力向上のワークショップを実施。</li> </ul> <p>(12)3月の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①全校集会「有終の美を飾ろう」をテーマの校長講話。</li> <li>②3学期の成果（教師力パワーアップシートの活用）</li> </ul> <p><b>4. 成果と課題</b></p> <p>各月の全校集会で校長より明確に月別目標を示したこと、教師力パワーアップシートを活用し各教職員が指導目標及び手立てを工夫しPDCAサイクル展開ができたこと、さらに外部講師を活用して全校児童及び高学年児童、さらに教職員の指導力アップを図ることができたこと等が挙げられる。このような取組の成果として、コロナ禍で様々な制限がある中、工夫した教育活動により、児童は落ち着いた学校生活を送ることができた。</p> <p>今後は本年度の活動を端緒に児童の心の安全・安心を守る体制作りの一層の充実化を図っていきたい。</p>
備 考	

2020年度  
不登校児童生徒対策推進事業実施報告

学校名	笛吹市立一宮中学校
研究テーマ	<p>校内研究の研究主題 「課題に気づき、主体的に活動する生徒の育成」 ～ユニバーサルデザインの視点に立った指導の工夫を通して～ 本推進事業のテーマ 「不登校生徒への学校における指導のあり方について」</p>
テーマ設定の理由	<p>不登校生徒の過半数以上が情緒学級所属生徒であり、また、普通学級所属の生徒もグレーゾーンと言われる生徒が大半を占める現状がある。これまでも、担任・交流学校担任・学年職員によるきめ細やかな対応（家庭訪問・個別懇談など）や、SCとの教育相談（生徒・生徒保護者）さらには、学校外部機関（こすもす教室との連携やSSWの活用、個別には放課後デイなど）をフルに活用しての個別対応を施しているが、一人ひとりの感覚が多様なため対応に苦勞している。同年齢の集団に入っていくことができない傾向の生徒が多く、職員も情緒生徒への対応の仕方を多方面から研究する必要性がある。</p>
研究概要（成果等）	<p>6月、指導主事を招聘しサブテーマ～ユニバーサルデザインの視点に立った指導の工夫を通して～と題して校内研修会を実施した。「障害のある子にとってわかりやすい授業は、他のすべての子供にとってわかりやすい授業である。」という観点から先ずは授業においてUDを意識して、取り入れていく授業を仕組んでいくことを共通理解して実践に繋げてきた。2月の校内研究のUDに関わってのアンケート結果も良好であり大きな成果となった。</p> <p>また特別支援学級の授業は、少人数であるが、教室に入れない生徒がおり、その生徒への対応として、ビデオを使った授業のLIVE配信を試みた。その結果これまではプリント学習だったものから、その日の授業を受けることができるようになった。別室ではあるが登校できるようになってきている生徒が微増している。</p>
備考	

2020年度  
不登校児童生徒対策推進事業実施報告

<p>学校名</p>	<p>山梨市立加納岩小学校</p>
<p>研究テーマ</p>	<p>不登校児童への学習支援の在り方</p>
<p>テーマ設定の理由</p>	<p>平成28年に教育機会確保法が施行され、不登校児童生徒の教育形態について多角的に認められるようになり、不登校児童生徒への教育を個々の状況に応じ適切に行われることが必要とされている。</p> <p>本校にも学校には登校できるものの、教室には入ることができず、保健室で過ごす児童が在籍している。このような児童への学習支援をどのように進めていくかは、今日的な学校課題であり、研究のテーマとして採り上げた。</p> <p>不登校児童への学習支援のために教員を増員させることはできないことから、学習環境を提供し、自主学習できるような方策を探っていきたい。</p>
<p>研究概要（成果等）</p>	<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、集団生活を送る学校への登校に不安を抱える児童があった。年度始めの一斉休校明け後も登校できない状況が続いていたが夏休み明けから学級には入ることができないものの別室登校ができるようになった。</p> <p>そこで、不登校児童生徒対策推進事業の助成金で購入した大型モニターを利用し、学級の様子を別室に配信した。感染症予防対策をとりながら学習する児童の様子を観ることで、集団で行う活動への不安が軽減されてきて、友だちとの交流ができるようになってきている。</p> <p>また、全校児童が集まる集会を実施することが困難なため各教室に大型モニターを利用し、映像を送っている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で不登校傾向となった児童への支援のために、大型モニターを活用し、学習することの保障をすることができた。</p>
<p>備考</p>	

# 2020年度 不登校児童生徒対策推進事業実施報告

<p>学校名</p>	<p>富士吉田市立 吉田小学校</p>
<p>研究テーマ</p>	<p>不登校児童・保護者への学校としての対応方法の研修 (不登校児童, 不適応児童, 特別支援を必要とする児童, 保護者へのチーム学校としての対応方法の研修)</p>
<p>テーマ設定の理由</p>	<p>令和元年度富士吉田市立吉田小学校では, 30日以上 の長期欠席児童が5名15日以上 の欠席児童は10名いる。 また, 学校には登校するが, 教室に入ることができない 児童が5名ほどおり, それらの児童や保護者の 対応に多くの教職員が 悩みながら関わってきた。 そこで, 職員研修として 不登校児童・不適応児童・ 特別支援を必要とする 児童・保護者への チーム学校としての 対応方法の研修, 不登校児童を出さない 魅力ある学校づくり・ 学級づくりの研修等 を行い, 不登校対策を 講じていきたいと 計画している。</p> <p>① 自己有用感を感じられる 魅力ある学校づくり ② 認め合い、助け合う、 温かい雰囲気 の学級づくり ③ 自己肯定感を高める 体験活動の充実 ④ 教育相談の充実→ 子どもや保護者との 信頼関係を築くための 教育相談</p> <p>いじめ等の早期発見・ 早期対応ができる 教職員の育成</p>
<p>研究概要 (成果等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究テーマに対応する 参考書籍による研修</li> <li>・ 校内研修にあわせて、 基礎基本を大切にしながら、 学級力を高めていくための 研修を行った。</li> </ul> <p>「学級力向上プロジェクト」〔田中博之編著〕 「ほめ言葉のシャワー」〔菊池正三著〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ S S W, S C等を招聘し、 授業観察およびコンサル テーションを実施し、 児童理解に努めた。</li> <li>・ 生徒指導部会や特別支援 部会において、気になる 児童について のケース会議を行い、 支援体制を構築した。</li> </ul> <p>研究成果</p> <p>① 各クラスにおいて自己 存在感や充実感を感じ られる魅力ある授業 づくり・体験活動の 充実が図られた。</p>

	<p>道徳の授業の充実が図られた。</p> <p>② 学校・学級での「心の居場所」「絆づくり」の場づくり 「お話タイム」により児童理解が深まった。</p> <p>③ 子どもや保護者との信頼関係を築くための教育相談を行った。 必要に応じて、心理士やS.Cから助言をいただく機会を設けた。 コロナ禍の中、不安になったり、心が不安定になったりしている児童が多く見られたので、S.Cから助言をいただいたり、家庭と連携してケース会議を開催したりした。</p> <p>④ 子どものSOSに気づき、素早く対応できる教職員の育成のため、書籍を元にした校内研修を行ったり、研修会へ参加した職員からの環流報告会を行ったりした。</p> <p>いじめアンケートを定期的に行い、早期発見し、早期に対応できるようにした。気になる児童には面談を行い、丁寧に聞き取るようにした。</p>
備考	

## 2020年度 不登校児童生徒対策推進事業実施報告

学校名	甲府市立東中学校
研究テーマ	不登校対策に向けた魅力ある学校づくり
テーマ設定の理由	<p>本校は学区内に主に4つの公立小学校をもつ大規模校である。不登校生徒も各学級2名平均で在籍している。不登校の理由は様々であり、複雑な家庭環境の生徒も多い。指導には学校全体で組織的に行っているが、さらなる広域な組織づくりと魅力ある学校づくりを行っていかねばならない。</p>
研究概要（成果等）	<p>不登校生徒を減らす、あるいは新たな不登校をつくらないための取り組みとして以下の3点を重点として実践を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学ぶ楽しさを知る授業改善            教師主導の一斉授業から小集団で主体的・対話的に学習に取り組み、「考え」「議論する」授業への転換を図ることで、学ぶ楽しさを感じながら「深い学び」を追究する研究を行う。ホワイトボードやICTを活用した授業の工夫なども行った。</li> <li>2. カウンセリング機能の充実            スクールカウンセラーや甲府市自立支援カウンセラーなど外部機関との連携を深めるため、継続的な連絡会やケース会議を行い、家庭・生徒が相談しやすい環境を整えた。</li> <li>3. 地域や小学校との連携            本校・里垣小・玉諸小・善誘館小・甲運小からなる甲府東中学校区小中連携会議及び同校長会を実施し、互いの情報交換を行いながら「あいさつ・学習・思いやり」の統一目標の下、協同的な教育活動を行った。</li> </ol>
備考	

## 2020年度 不登校児童生徒対策推進事業実施報告

学校名	中央市立三村小学校
研究テーマ	児童・家庭・学校の信頼に基づいた生徒指導のあり方 ～外国籍児童への対応ついて～
テーマ設定の理由	本校では不登校及びその傾向にある児童が数名いる。中でも近年、外国籍児童の中で、言葉の壁や文化の違いから学校生活に不適應を起こし、不登校傾向になる児童が見られるようになってきた。学校生活がスムーズに送れるように、家庭とも連携を図りながら、指導・相談体制を整えるようにしたい。また、そのために必要な職員の資質能力の向上に努めたい。以上の理由から本テーマを設定した。
研究概要 (成果等)	<p>これまでも外国籍児童の指導にあたっては、学級担任だけではなく、通訳、日本語指導教師、外国籍児童担当職員が連携し、情報を共有する中で組織として対応してきた。また、通訳を介しながら、できるだけ保護者とも連絡を密にとりながら対応するようにしてきた。しかし、児童間のトラブルや保護者対応等で、言葉が通じないことから迅速に対応できないことが度々あった。</p> <p>そこで今年度は、本事業を活用し、外国籍児童対応のために翻訳機を6台購入することにした。以下は、翻訳機（ポケトーク）を活用しての成果である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年に1台ずつ配備することによって、該当担任が使いたいときにすぐ使える体制が整えられた。</li> <li>・外国籍児童本人が困っている時に、翻訳機を使って直接担任に訴えることができた。</li> <li>・日本語指導の場面で、学習指導に役立てることができた。</li> <li>・校外学習等で、説明を翻訳して聞かせることができた。</li> </ul>
備考	



## 2020年度 不登校児童生徒対策推進事業実施報告

学校名	富士河口湖町立勝山小学校
研究テーマ	「全ての児童にとって居心地のよい 学校・学級づくりの創造」
テーマ設定の理由	<p>本校ではここ数年間、児童の心の荒れによりいくつかの学級において崩壊現象が起き、その結果児童の自己肯定感や児童同士の信頼感低下が起これり、学校不適応となる児童が増加している。これらの課題改善のために「全ての児童にとって居心地のよい学校・学級づくり」に取り組むとともに各教科・特別活動を基盤として「人間関係形成」「自己実現」「社会参画」の能力を育成していくことで、安心して登校できる児童の心の育成に取り組む。</p>
研究概要（成果等）	<p>4月20日(月)研究計画の確認【学級経営案立案と検討】  5月1日(金) 新型コロナ対策学習会・今後の学級づくり学習会 【理論研究会：研究資料図書使用】  5月18日(月) 研究計画の確認  【QUテスト・学級力アンケート実施】  6月5日(金)学級づくり学習会  8月24日(月) QU学習会*講師招請(品田笑子先生)  9月2日(水) 各ブロック指導案検討 *指導主事招請  10月26日(月) 研究授業 研究会  【QUテスト・学級力アンケート実施】  11月11日(月) QU学習会*講師招請(品田笑子先生)  11月16日(月)研究授業 研究会 *指導主事招請  12月2日(水)研究成果と課題 研究紀要の作成について  1月18日(月)各ブロックから研究成果と課題の発表  2月22日(月)研究のまとめ 来年度の方向性について  【活動内容】  1 誰もが居心地の良い学校・学級集団を意識した授業づくり(楽しくわかる子供を主体とした授業づくり)  2 特別な支援を必要とする児童についてカルテを作成し、支援会議において対応を検討。  3 よりよい勝山っ子を目指して、生活・学習規律について生徒指導部会で再検討し、重点化。  4 校内研究では人間関係形成能力の育成を重点目標とし、QUテストや学級力アンケートについて講師を招いてその分析を丁寧に行い、その後の効果的な取組方法の研究に基づいた実践を行う。  【成果】  ・学級力アンケートを行い、学級の良さや問題点を児童・教師が共有化し問題解決に活かした。  ・特別な支援を必要とする児童についてカルテを作成し、それを基に支援会議を行い、関係機関との連携を通してきめ細</p>

かな指導を行うことで、自己肯定感を高めることができた。

- ・現状に合った生活・学習規律を策定し、全校共通確認し指導することでルールを守ろうとする児童が増えた。
- ・学校教育活動全般を通して人間関係形成能力に重点を置き、合意形成を基本とした集団づくりを進めることができた。
- ・QUテストや学級力アンケートを実施し、その分析から子ども一人一人の思いや学級における人間関係に配慮した取組を行ったことにより自己肯定感の高まりがみられ、不登校児童や登校渋り児童の減少につながった。



備考

## 2020年度 不登校児童生徒対策推進事業実施報告

学校名	北杜市立 小淵沢小学校
研究テーマ	不登校児童を生まない教育活動の取組
テーマ設定の理由	<p>社会の急激な変化により，学校・家庭・地域の関わり方の在り方も変化してきている現在，学校教育活動の充実を通して，不登校児童を生まない・減らす取組が学校に求められている。</p> <p>学習指導・生活指導の充実を通して，児童が毎日楽しく充実した学校生活を送ることにより，不登校児童を生まない・減らす学校を目指して行きたい。</p>
研究概要（成果等）	<p>4月 学校教育目標 具体的な取組の確認</p> <p>5月 学習指導・生活指導の重点確認，方法の確認 児童の実態把握と教職員間での情報の共有</p> <p>6月～実践と振り返り（PDCA）を通して，進捗状況の分析と確認 必要に応じて，方法の軌道修正</p> <p>10月 授業研究会 成果と課題の確認</p> <p>2月 今年度の振り返り 成果と課題のまとめ 次年度へ向けての方向性の確認</p> <p>学習指導に関しては，授業中，自分の考えをノートに書き出す場面を大切にしました。書く時間の確保や場面をしっかりと設定することで，児童の書く力が次第に育ってきている。</p> <p>「めあて」に対する「まとめ」を確認することにより，分かったことを明確にしたり考えを見直したりすることができた。</p> <p>生活指導に関しては，自己肯定感や自己有用感を育てるため，あいさつ運動を通して児童のコミュニケーションを深めることができた。また，生活規律を身につけさせることを通して，安心して学校生活を送ることができる児童が育ってきている。</p>
備考	

2020年度  
不登校児童生徒対策推進事業実施報告

学校名	甲府市立相川小学校
研究テーマ	心豊かな人間性と 主体的に生きる力を持った児童の育成
テーマ設定の理由	<p>研究テーマが示す児童の育成は、本校の不登校指導、対応における課題である。</p> <p>本研究においては、学校単独でスクールカウンセラーを導入し、カウンセリング機能を有効に活用し、未然防止に取り組む。</p>
研究概要（成果等）	<p>本研究では、学級児童の居場所や所属感、自己有用感等を調査する「Q-U」検査を全校児童に1回実施した。この検査結果の読み取りや解釈、学級担任として具体的な対応等について、大学研究者(都留文科大学 品田 笑子先生)から指導を受けた。</p> <p>併せて、本年度より小学校へ配置された県スクールカウンセラー（年間77時間）と、本事業による予算を加えた時間（20時間）の合計97時間を元に、「スクールカウンセラーによる児童全員カウンセリング」を実施し、カウンセリング及びにコンサルテーションが行われた。</p> <p>これまでの教師の観察に基づく児童理解だけでなく、「Q-U」検査の結果と分析、スクールカウンセラーからのコンサルテーションの情報を併せる中で、児童一人一人の丁寧な理解に取り組んだ。</p> <p>研究テーマに迫るまでの研究には至らなかったが、本事業は、「スクールカウンセラーによる児童全員カウンセリング」に大変に有効であった。</p> <p>特に新型コロナウイルス感染症の影響による長期臨時休業、また「新しい生活様式」で制限された学校生活を送る児童の「心のケア」につながった。</p>
備考	

2020年度

## 不登校児童生徒対策推進事業実施報告

学校名	南アルプス市立小中一貫校八田小中学校 南アルプス市立八田中学校
研究テーマ	魅力ある学校づくりと不登校生徒への柔軟な対応
テーマ設定の理由	本校には、小規模校のわりに不登校生徒や不登校傾向にある生徒が多く在籍している。昨年度の卒業生も含め十数名の不登校生徒がいて、本年度は県から「不登校生徒指導加配教員」が配置された。不登校を未然に防ぐためには、「魅力ある学校づくり」が何よりも重要である。また、現在不登校になってしまっている生徒に対しては、地域や家庭、各関係機関との連携が不可欠であり、個に応じた「居場所づくり」をしていく必要がある。そこで、不登校生徒をつくらない取組と様々な課題を抱えた不登校生徒への柔軟な対応ができるように、本研究テーマを設定した。
研究概要 (成果等)	研究活動や以下の取組を通して、不登校生徒を昨年度よりも確実に減らすことができた。 ○魅力ある学校づくり ・生徒が「わかった」「できた」という実感が持てる授業を仕組む。そのために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行ってきた。 ・系列（1．2．3年のクラスによる縦割り集団）を活用して、「応援合戦」や「合唱活動」など、特色ある行事を実施した。コロナ禍においても、生徒が楽しく、自ら成長できる活動を工夫して行ってきた。 ・小中一貫校として「9年間を見通した教育課程」を実施したり、中一ギャップを解消するための取組（2者懇談・SCによるカウンセリング・自尊感情を高めるためのソーシャルスキルトレーニングなど）を行ったりして、新たな不登校生徒を生まない集団づくりを心掛けた。 ○不登校生徒への柔軟な対応 ・不登校についての小中合同研修会を実施し、不登校児童生徒に対する教職員の理解と対応力を高めた。また、職員会議等で在籍する不登校生徒についての共通理解を全職員で図ったり、生徒指導部会において毎週情報交換を行ったりした。 ・スクールカウンセラーや養護教諭、保護者や関係機関とも連携しながらケース会議等を行い、個に応じて組織的・計画的に柔軟な対応をした。 ・登校はするが教室には行けない生徒に対して、居場所（相談室・学習室・会議室・PC準備室等）を確保し、社会的自立を促した。
備考	令和元年度より、南アルプス市立小中一貫校八田小中学校に制定され、本年度で2年目を迎えた。南アルプス市の「学びの質を高める授業づくり推進事業」の指定校として、1月20日（水）に公開研究会を実施した。